

イチゴの環境モニタリング5期目スタート！！

球磨地域では、スマート農業の取組みの一環として、イチゴでの栽培環境のモニタリングと、そのデータの共有による管理技術の向上に取り組んでいます。5期目となる令和7年産では、JAくま苺部会員約60戸のうち、新規就農者を含む管内17戸（4期目：12戸）の生産者が環境モニタリングを実施しており、12月18日に各生産者のほ場において現地検討会を開催しました。

当日はモニタリング実施農家13名、JA指導員4名が参加し、各生産者の環境データとイチゴの生育状況を確認しながら、意見交換を行いました。どのほ場も生育は順調で、昨年産の課題であった年内収量も確保できており、環境モニタリングの取組みによって着実に管理技術が向上していることが見て取れました。出席した新規就農者からは、「高収量の生産者の管理と自分の管理が比較でき、とても勉強になった」など前向きな意見がありました。

今後は、各生産者の生育・収量と管理方法の関係を解析し、3月以降の現地検討会で部会内の全生産者や関係機関へ結果を共有する予定です。

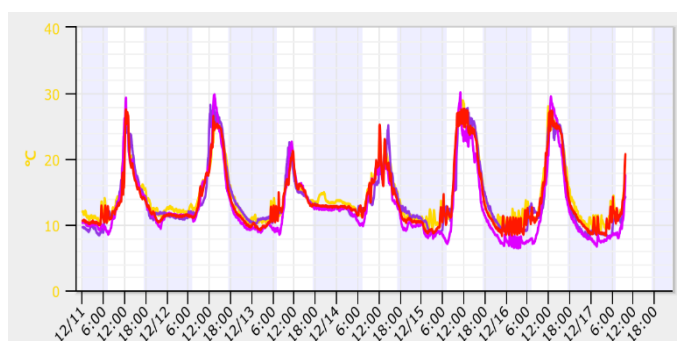
当課では引き続き、環境モニタリングを活用した管理技術の向上の取組みをさらに拡大し、球磨地域のイチゴの収量増加、収益増大を図っていきます。



現地検討会の様子



現地ほ場の様子



環境モニタリングのハウス内気温データ